

未就学児等のICT利活用に係る
保護者の意識に関する調査報告書
【概要版】

平成27年7月
総務省情報通信政策研究所

調査の目的・概要

調査の背景及び目的

- 平成26年2～3月に実施した「子どものICT利活用能力に係る保護者の意識に関する調査」により、学年が低いほど、初めて情報通信端末を利用した年齢が低いこと、とりわけ、小学校入学前に情報通信端末を利用開始する割合が、平成23年以降の3年間で大きく上昇していることが明らかになった。
- この調査は、これまで殆ど実施されていない、**未就学児を中心とした子どもの情報通信端末の利用実態**やその**保護者の意識**を明らかにし、今後の関連施策立案等の一助とすることを目的とする。

調査概要

総務省情報通信政策研究所において、以下のとおり実施した。

- 調査方法** 未就学児、小学生の子どもを持つ保護者を対象とするWebアンケートにより実施
- 調査期間** 平成27年3月上旬
- サンプル** 下記1,750サンプルを調査会社Webアンケートモニターより抽出

※スクリーニング調査において、子どもが、スマートフォン、タブレット型端末、ノートPC、デスクトップPC、携帯電話・PHSのうち、少なくとも一つ以上を利用したことがあると回答した保護者を対象としている。子どもが自発的に利用している場合だけでなく、保護者が子どもに見せたり使わせたりしている場合も利用に含めている。

サンプル区分	サンプルサイズ
0歳児～6歳児の各年齢の子供の保護者	0歳:150サンプル、1～6歳児:200サンプル × 6セグメント = 1,350 (各100サンプル:第一子、第二子以降)
小学1～3年生・小学4～6年生の 子供の保護者(未就学児との比較)	200サンプル × 2セグメント = 400 (各100サンプル・第一子・第二子以降)
合計	1, 750

調査結果のポイント

1. スクリーニング調査

結果概要	頁数
【利用状況】 ●0歳児の1割が情報通信端末を利用(保護者が見せたり使わせたりしている場合を含む)しており、その割合は年齢とともに上昇する。0歳児と1歳児は10%台、2歳児と3歳児は30%台、4歳児から6歳児は40%台、小学1～3年生は51.8%、4～6年生は68.7%。 ●同一年齢で比較した場合、第一子よりも第二子以降の方が利用率が高い。第二子以降の0歳児は21.0%が利用。	4

2. 本調査

以下の本調査は、スクリーニング調査において、子どもが、スマートフォン、タブレット型端末、ノートPC、デスクトップPC、携帯電話・PHSのうち、少なくとも一つ以上利用したことがあると回答した保護者を対象に実施した。なお、子どもが自発的に利用している場合だけではなく、保護者が子どもに見せたり使わせたりしている場合も利用に含めている。

1) 未就学児を中心とする子どものICT利用状況

中項目	小項目	結果概要	頁数
① 情報通信端末の利用状況	利用端末	●0～3歳児は7割がスマートフォンを利用しているが、年齢が上がるほどその利用率は下がり、PC等の他の端末の利用率が上がる。	6
	利用機能・アプリ	●よく利用されている機能・アプリは動画閲覧(YouTube等)で、全年代において6～7割が利用している。他に利用率が高いのは、未就学児では写真閲覧(5～6割)、小学生ではゲーム(5～6割)。ゲームは、4～6歳児においても4割が利用。 ●知育アプリの利用割合も高く、未就学児の4割、小学生で2～3割が利用。 ●小学生になると、インターネット検索の利用割合が高くなり、小学4～6年生の4割が利用。	7
② 家庭における取組み	ルール	●4歳児以上の子どもの保護者の約8割、0～3歳児の保護者の約6割は、子どもの情報通信端末の利用に当たって、何らかの約束ごとを決めている。利用時間や利用内容に関するものの割合が高い。	8
	指導と操作能力	●未就学児の3割は、情報通信端末を使いこなす能力を身に付けさせるための取組みを家庭で行わなくても、端末の操作を自発的に修得している。	9

調査結果のポイント

2) 保護者の意識

中項目	小項目	結果概要	頁数
① 利用目的・ 意図	触れさせる理由	<ul style="list-style-type: none"> ●未就学児は、保護者が家事等で手が離せないときが6割、外出しているとき(待ち時間や移動時間)が4割といった、保護者側の事情と考えられるシーンでの利用も多い。 ●未就学児の5割、小学生の7割と、いずれも遊ぶときの利用が多い。 	10
② 評価	触れさせることの効果	<ul style="list-style-type: none"> ●0～3歳児の保護者の半数以上は、保護者の手を煩わせない時間ができたことや、子どもの機嫌がよくなったことを挙げている。 ●子どもの年齢が上がるにつれ、学習ができた、対象への関心が深まった、子ども自身で知りたい情報を検索することができるようになった、深く知りたがるようになった、のいずれかを回答している保護者の割合が高くなっている。 	11
	未就学児の時に触れた経験の評価(小学生)	<ul style="list-style-type: none"> ●「未就学児のときに、情報通信端末を使った楽しい経験を覚えている」について、あてはまるとの回答があてはまらないとの回答の約2倍あった。 ●「未就学児のときに情報通信端末を触っていたので、現在、端末の操作につまづくことはない」についても、あてはまるとの回答があてはまらないとの回答の約2倍あった。 	12
③ 悩み・不安	悩み・不安	<ul style="list-style-type: none"> ●どの年代の保護者においても、不適切な情報・画像に触れないか、課金サイトに接続しないか、が、それぞれ半数を超えている。 ●心身、情緒発達等への影響といった漠然とした不安を有する保護者の比率は、長子の方が高い。また、年齢が上がるにつれ、その比率は低下する。 	13
④ 期待	プログラミング	●未就学児・小学生の保護者とも、プログラミングを習わせたいとする回答と、わからないとする回答がともに4割程度であった。	14
	将来の必要性	●全体の8割以上の保護者が、子どもの将来にとって、情報通信端末を利用できるようになることに肯定的であった。	15

スクリーニング調査及び本調査の条件の詳細は、本報告書を参照。

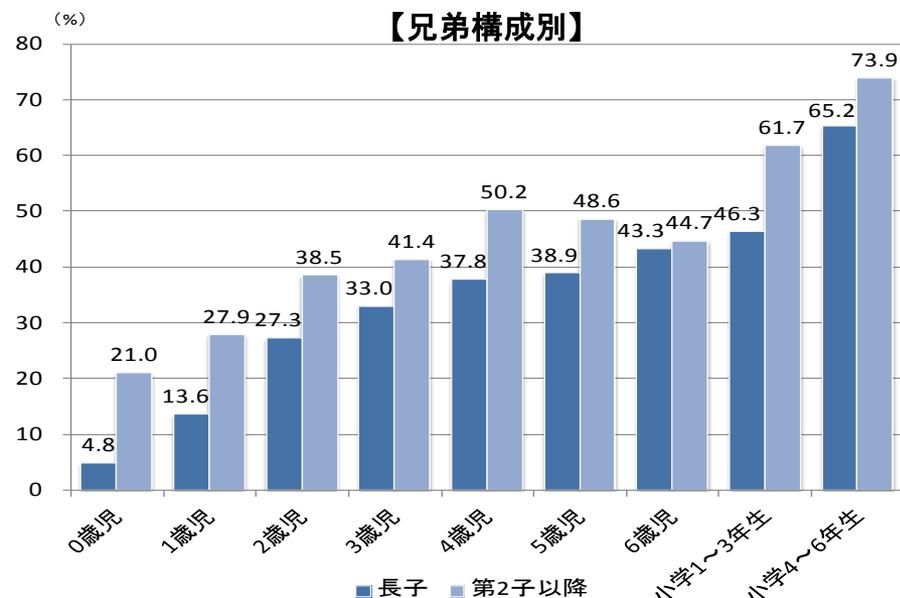
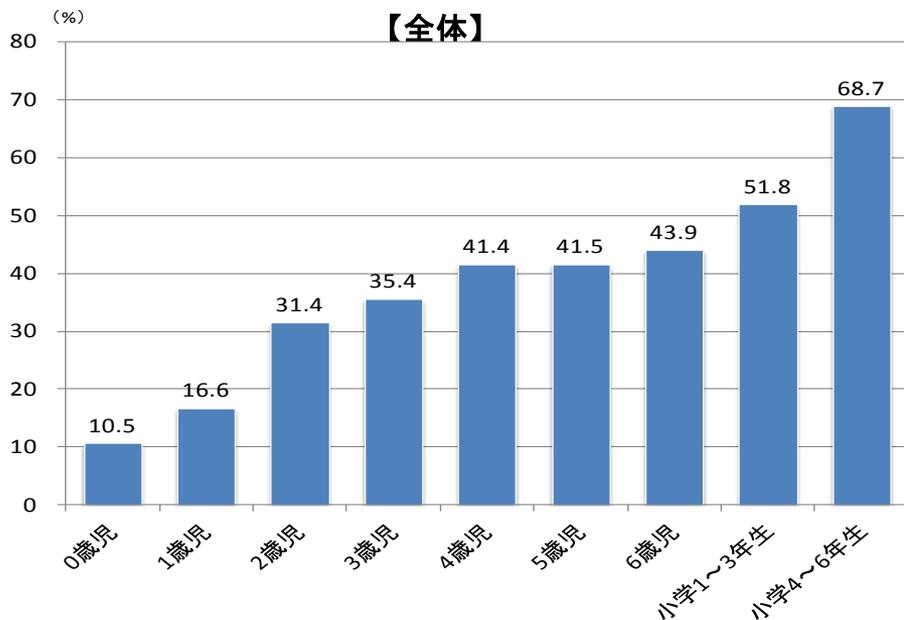
1) 未就学児を中心とする子どものICT利用状況 ①情報通信端末の利用状況

子どもの情報通信端末利用状況(スクリーニング調査結果)

●0歳児の1割が情報通信端末を利用(保護者が見せたり使わせたりしている場合を含む)しており、その割合は年齢とともに上昇する。0歳児と1歳児は10%台、2歳児と3歳児は30%台、4歳児から6歳児は40%台、小学1～3年生は51.8%、4～6年生は68.7%。

●同一年齢で比較した場合、第一子よりも第二子以降の方が利用率が高い。第二子以降の0歳児は21.0%が利用。

■お子様の情報通信端末利用率(保護者が見せたり使わせたりしているものも含む) ※利用率は、各セグメントごとの条件該当数/回答数



※回答数は、0歳児1599、1歳児2153、2歳児1805、3歳児1701、4歳児978、5歳児1247、6歳児836、小学1～3年生2820、小学4～6年生2667。

※第一子の回答数は、0歳児1038、1歳児1698、2歳児1177、3歳児1198、4歳児693、5歳児922、6歳児476、小学1～3年生1814、小学4～6年生1573。

※第二子以降の回答数は、0歳児561、1歳児455、2歳児628、3歳児503、4歳児285、5歳児325、6歳児360、小学1～3年生1006、小学4～6年生1094。

※スマートフォン、タブレット型端末、ノートPC、デスクトップPC及び携帯電話・PHSのいずれかを子どもが利用(保護者が見せたり使わせたりしている場合を含む。)と回答した者を条件該当者として集計し、利用率を算出している。

※ 本調査の前提について

今回の調査では、未就学児(特に低年齢の子ども)の情報通信端末の利用率が低いと見込まれたことから、スクリーニング調査を行い、子どもにスマートフォン、タブレット型端末、ノートPC、デスクトップPC、携帯電話・PHSのうち、少なくとも一つ以上利用させたことがあると回答した保護者を対象に、本調査を実施した。

すなわち、本調査の結果における「利用率」等は、事前のスクリーニング調査において、何らかの情報通信端末を利用した子どもの数を分母とする比率である。

なお、情報通信端末の利用には、保護者が子どもに情報通信機器を見せたり使わせたりした場合も含んでいる。

以下のページからは、**本調査**の結果である。

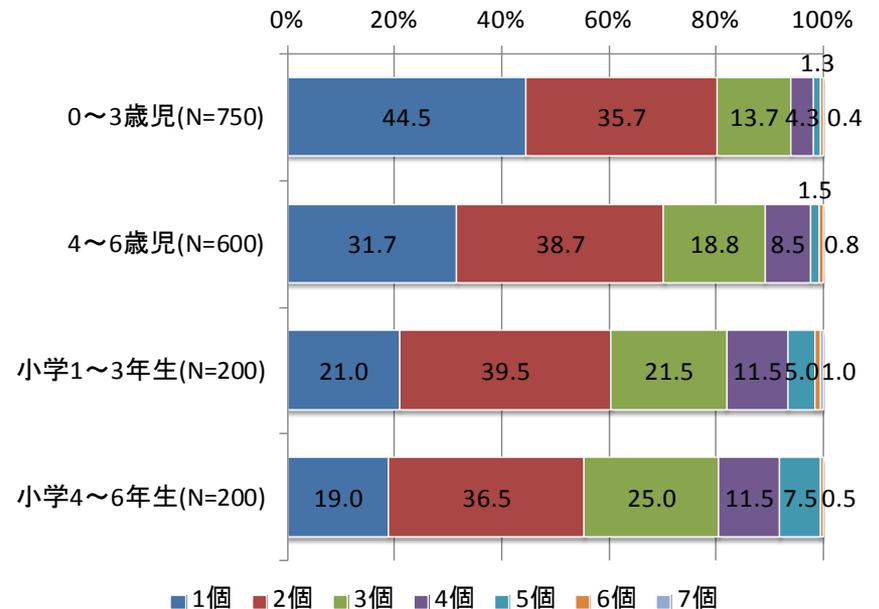
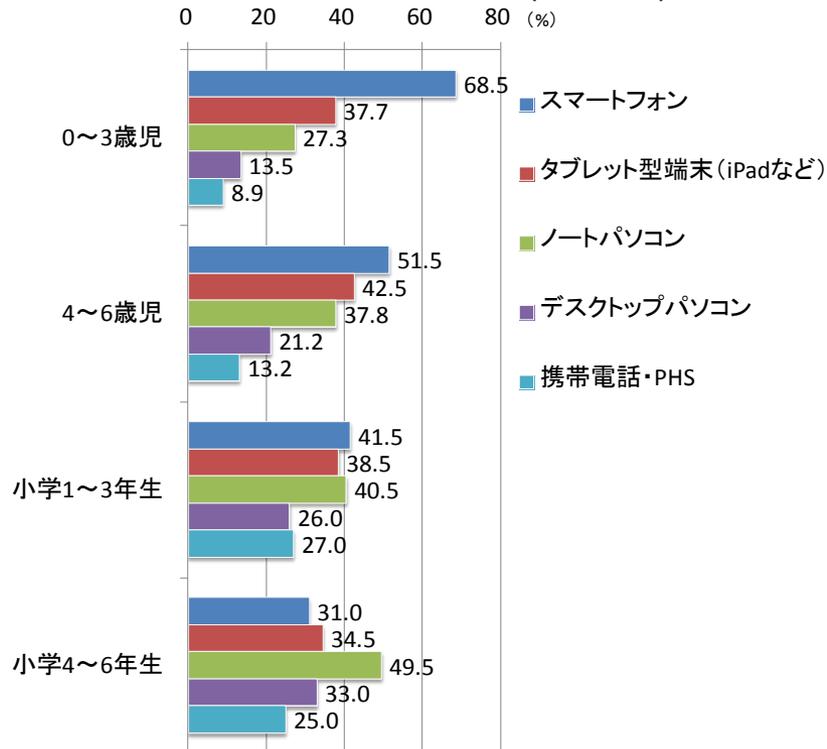
1) 未就学児を中心とする子どものICT利用状況 ①情報通信端末の利用状況

情報通信端末の利用状況(以下、本調査結果)

- 0～3歳児は7割(68.5%)がスマートフォンを利用しているが、年齢が上がるほどその利用率は下がり、PC等他の端末の利用率が上がる。
- 子どもの年齢が上がるにつれ、情報通信端末の利用個数が増える。0～3歳児の8割(80.2%)が1～2個であるのに対し、小学生の6割程度が2～3個の端末を利用。

■ お子様を利用している情報通信端末全て(保護者が見せたり使わせたりしているものも含む) (N=1750)[複数回答]

■ 子どもの利用する情報通信端末の個数 (左の結果を整理したもの)



1) 未就学児を中心とする子どものICT利用状況 ①情報通信端末の利用状況

機能・アプリ等利用状況

- よく利用されている機能・アプリは動画閲覧(YouTube等)で、全年代において6~7割が利用している。他に利用率が高いのは、未就学児では写真閲覧(5~6割)、小学生ではゲーム(5~6割)。ゲームは、4~6歳児においても4割が利用。
- 知育アプリの利用割合も高く、未就学児の4割(0~3歳児:39.6%、4~6歳児:36.7%)、小学生で2~3割(1~3年生:25.0%、4~6年生:17.0%)が利用。
- 小学生になると、インターネット検索機能の利用割合が高くなり、小学4~6年生で4割(39.0%)が利用。

■お子様が利用しているアプリや機能であてはまるものをお答えください。〔複数選択〕 (%)

	写真閲覧	動画閲覧 (YouTube等)	写真・動画撮影	知育(ことば／音楽) ／英語・語学／数遊	絵本・児童書	しつけ	その他遊び(ごっこ遊び、おしゃれ遊び等)	音楽	パズル	お絵かき	アニメ	ゲーム	コミュニケーション(メールやチャット機能)	インターネット検索機能 (Google、Yahoo等)	その他
0~3歳児 (N=750)	62.0	70.1	38.9	39.6	12.8	4.5	8.4	17.6	16.8	18.1	12.7	18.8	3.7	7.6	0.3
4~6歳児 (N=600)	48.7	65.0	37.5	36.7	12.8	3.3	10.8	15.2	24.8	21.5	16.2	43.2	5.7	8.7	0.8
小学1~3年生 (N=200)	28.0	55.0	24.0	25.0	5.5	3.0	6.0	11.5	17.5	13.0	12.0	59.0	10.5	22.0	1.0
小学4~6年生 (N=200)	30.5	58.5	26.5	17.0	1.0	1.5	1.0	18.0	9.0	4.0	8.5	50.0	13.0	39.0	0.5

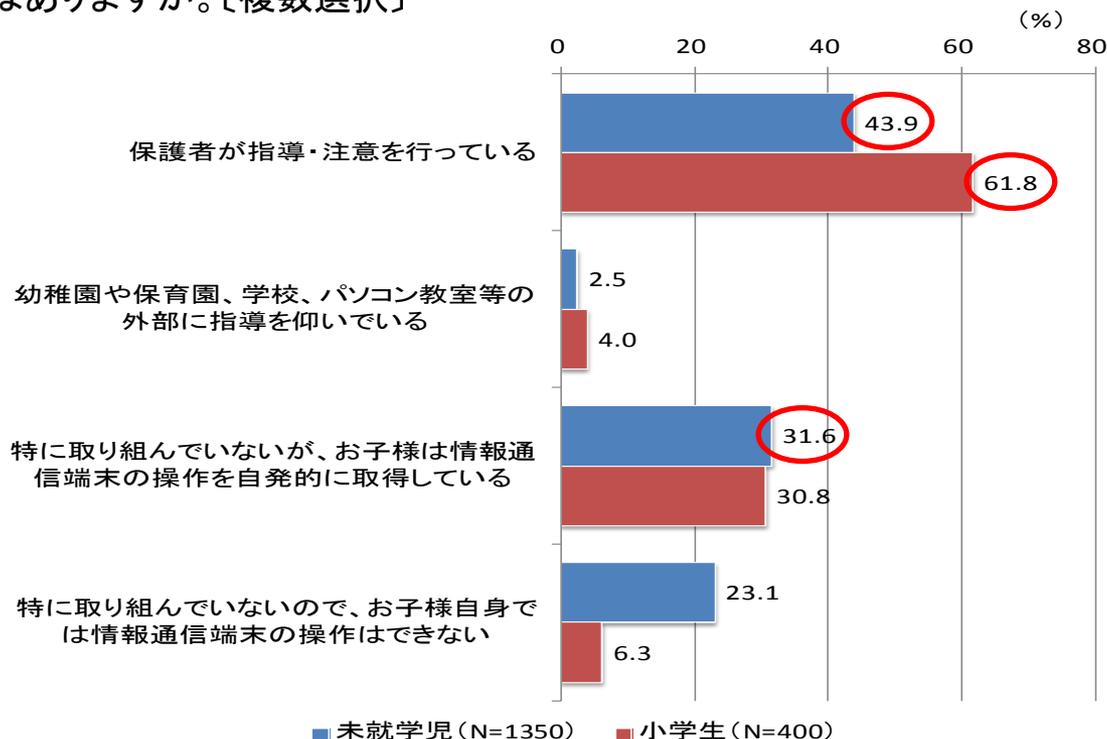
1) 未就学児を中心とする子どものICT利用状況 ②家庭における取組み

情報通信端末を使いこなすための取組み

● 未就学児の3割(31.6%)は、情報通信端末を使いこなす能力を身に付けさせるための取組みを家庭で行わなくても、端末の操作を自発的に修得している。

● 未就学児の保護者の4割(43.9%)、小学生の保護者の6割(61.8%)が、子どもに情報通信端末を使いこなす能力を身に付けさせるために、指導・注意を行っている。

■ お子様の情報通信端末(スマートフォンやタブレット端末等)を使いこなす能力を身に付けさせるために、ご家庭で取り組んでいることはありますか。〔複数選択〕



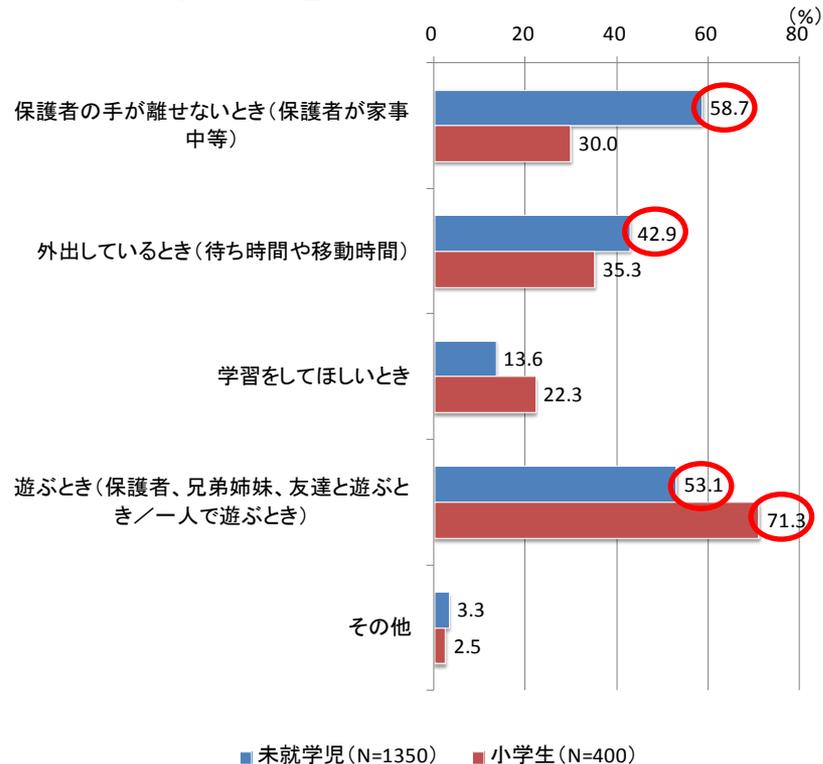
2) 保護者の意識 ①利用目的・意図

触れさせる理由

●未就学児は、保護者が家事等で手が離せないときが6割(58.7%)、外出しているとき(待ち時間や移動時間)が4割(42.9%)といった、保護者側の事情と考えられるシーンでの利用も多い。

●未就学児の5割(53.1%)、小学生の7割(71.3%)と、いずれも、遊ぶときの利用が多い。

■お子様にはどのようなときに情報通信端末(スマートフォンやタブレット端末等)を使わせますか。〔複数選択〕



■お子様を情報通信端末(スマートフォンやタブレット端末等)に触れさせる理由としてあてはまるものをお答えください。〔複数選択〕

	るせない(ひい)と(り)で遊ぶ(か)るから(歌、しつけ等)	保護者の手(ひい)と(り)で遊ぶ(か)るから(歌、しつけ等)	む、お(こ)の(機)嫌(が)良(く)なる(か)ら(泣)き止	歌、し(つ)け(等)	学(習)が(で)き(る)か(ら)(文)字、(数)字、(英)語、	か(ら)(英)語、(歌)等(へ)興(味)／関(心)が(高)まる	ア(プ)リ(で)取(り)扱(っ)て(い)る(対)象(文)字、(数)	明(す)る(か)ら(感)想(を)話(す)、(内)容(を)説	利(用)を(き)つ(か)け(に)保(護)者・(兄)弟(姉)妹(で)会	作(を)覚(え)る(か)ら(ス)マ(ー)ト(フ)ォ(ン)、(タ)ブ(レ)ッ(ト)端(末)等(の)操	ス(マ)ー(ト)フ(ォ)ン、(タ)ブ(レ)ッ(ト)端(末)等(に)触	リ(タ)ガ(る)か(ら)	お(友)達(が)情(報)通(信)端(末)を(も)っ(て)い(る)か(ら)	小(学)校(に)入(る)前(に)情(報)通(信)端(末)の(操)作(に)	情(報)通(信)端(末)を(使)わ(せ)て(い)る(と)論(理)的(な)	思(考)が(身)に(つ)き(そ)う(だ)か(ら)	そ(他)	特(に)理(由)は(無)い
0~3歳児(N=750)	50.8	56.4	25.1	15.7	4.5	10.5	14.0	1.9	4.4	2.8	0.4	9.1						
4~6歳児(N=600)	47.3	28.0	30.5	20.8	8.7	19.3	13.7	2.2	6.2	3.2	1.5	11.5						
小学1~3年生(N=200)	30.0	11.0	28.0	20.5	10.5	27.5	13.5	8.0	3.5	6.0	3.0	24.5						
小学4~6年生(N=200)	12.5	6.0	29.5	13.0	7.5	29.5	9.0	11.0	0.5	4.0	3.5	27.0						

2) 保護者の意識 ②評価

触れさせることの効果

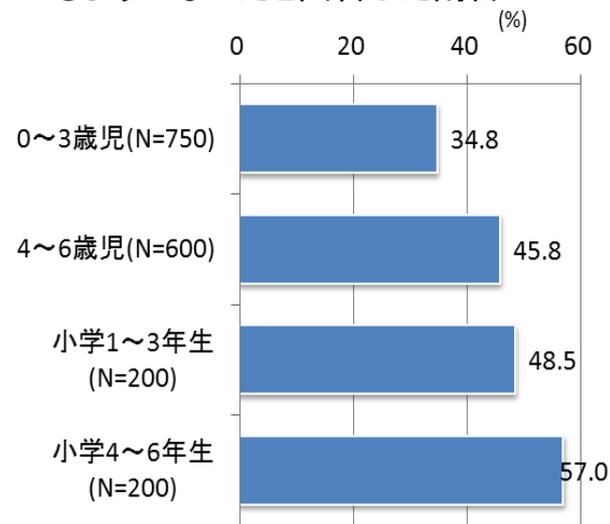
●0～3歳児の保護者の半数以上は、保護者の手を煩わせない時間ができたことや、子どもの機嫌がよくなったことを挙げている。

●子どもの年齢が上がるにつれて、学習ができた、対象への関心が高まった、子ども自身で知りたい情報を検索することができるようになった、深く知りたがるようになった、のいずれかを回答している保護者の割合が高くなっている。

■お子様情報通信端末(スマートフォンやタブレット端末等)やアプリに触れることの効果として実感しているものはありますか。あてはまるものをお答えください。〔複数選択〕

■学習ができた、対象への関心が高まった、検索するようになった、深く知りたがるようになったと回答した割合

	か に 保 護 者 の 手 を 煩 わ せ な い 時 間 が で き た (静 か に な る 、 ひ と り で 遊 ぶ)	顔 お 子 様 の 機 嫌 が 良 く な っ た (泣 き 止 む 、 笑 み な る)	つ 学 習 が で き た (文 字 、 数 字 、 英 語 、 歌 、 し ら べ 等)	字 ア プ リ で 取 り 扱 っ て い る 対 象 へ 興 味 ／ 関 心 が 高 ま っ た (文 字 、 数 字 、 英 語 、 歌 等)	検 お 子 様 ご 自 身 で 知 り た い 情 報 を 探 し た り 、 検 索 す る こ と が で き る よ う に な っ た	な お 子 様 が も っ と い ろ い ろ な こ と を 知 り た が る よ う に な っ た (深 く 知 り た が る よ う に な っ た)	情 報 通 信 端 末 を 使 っ て 知 っ た 情 報 に つ い て お 子 様 が 周 圍 に 説 明 す る よ う に な っ た	説 明 す る よ う に な っ た 経 験 に つ い て 周 圍 に 説 明 す る よ う に な っ た	情 報 通 信 端 末 の 利 用 を き っ か け に 保 護 者 ・ 兄 弟 姉 妹 で 会 話 が 増 え た	ス マ ー ト フ ォ ン 、 タ ブ レ ッ ト 端 末 等 の 操 作 が で き る よ う に な っ た	ス マ ー ト フ ォ ン 、 タ ブ レ ッ ト 端 末 等 の 情 報 に 関 心 を 持 っ よ う に な っ た	そ の 他	特 に 効 果 は 感 じ て い な い	わ か ら な い
0～3歳児 (N=750)	56.4	55.6	23.2	17.2	6.9	7.9	4.1	2.3	2.4	18.8	7.7	0.3	9.1	2.9
4～6歳児 (N=600)	52.5	28.5	25.8	21.3	12.3	14.8	6.8	3.8	4.8	26.2	8.8	0.0	13.2	2.7
小学1～3年生 (N=200)	33.5	13.5	24.5	16.5	27.0	15.5	7.5	4.5	7.0	31.5	14.0	0.5	21.0	5.0
小学4～6年生 (N=200)	18.5	7.0	19.5	6.5	39.0	15.5	7.0	7.5	6.5	26.0	5.0	0.5	23.0	4.0



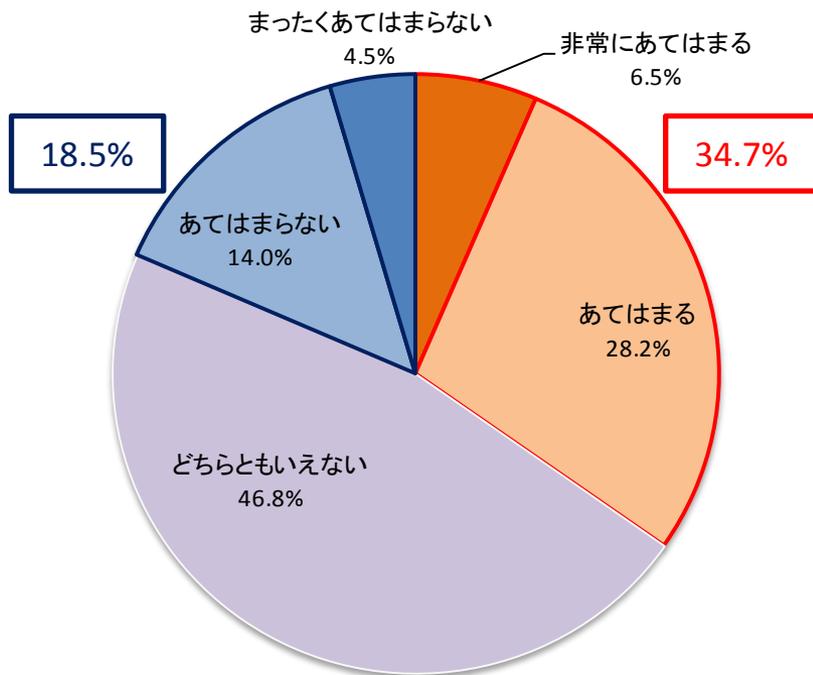
※左記設問において、「学習ができた」、「アプリで取り扱っている対象へ興味／関心が高まった」、「お子様自身で知りたい情報を探したり検索することができるようになった」「お子様がもっといろいろなことを知りたがるようになった」のいずれかを回答した人の割合

2) 保護者の意識 ②評価

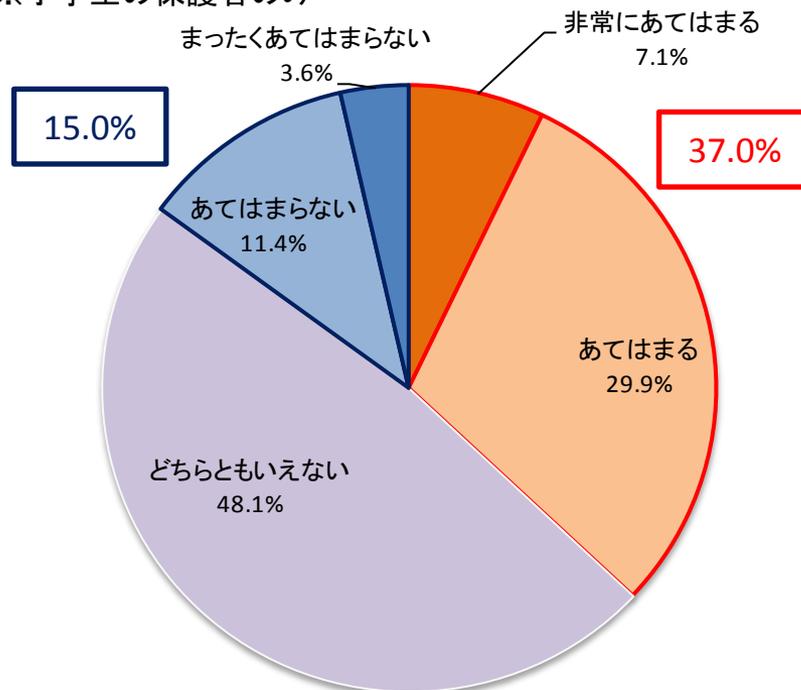
未就学児のときに触れた経験の効果(小学生)

- 「未就学児のときに、情報通信端末を使った楽しい経験を覚えている」について、あてはまるとの回答があてはまらないとの回答の約2倍あった。
- 「未就学児のときに情報通信端末に触っていたので、現在、端末の操作につまづくことはない」についても、あてはまるとの回答があてはまらないとの回答の約2倍あった。

■ 幼少期に情報通信端末を使った楽しい経験を現在も覚えている[一つ選択] ※小学生の保護者のみ



■ 幼少期に情報通信端末に触っていたので、現在、情報通信端末の操作につまづくことはない[一つ選択] ※小学生の保護者のみ



2) 保護者の意識 ③ 悩み・不安

悩み・不安

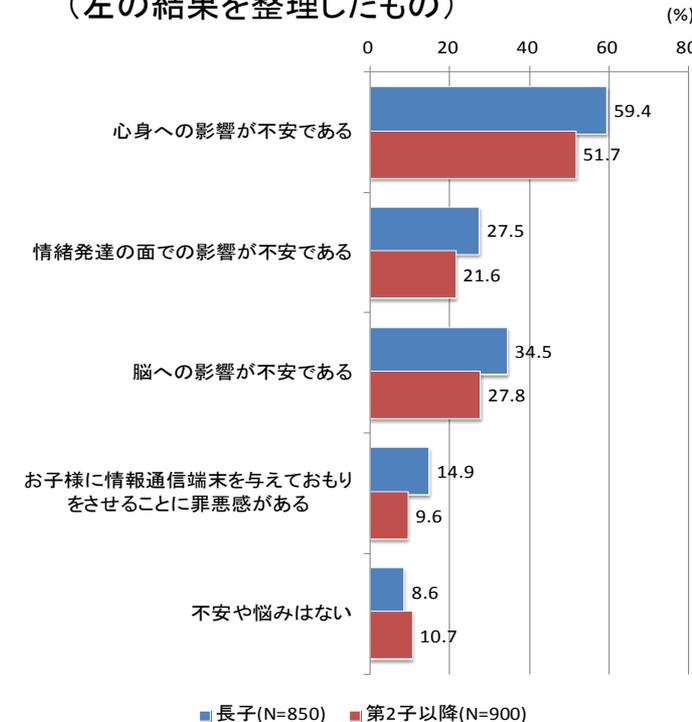
● どの年代の保護者においても、不適切な情報・画像に触れないか、課金サイトに接続しないか、が、それぞれ半数を超えている。

● 心身、情緒発達等への影響といった漠然とした不安を有する保護者の比率は、長子の方が高い。また、年齢が上がるにつれ、その比率は低下する。

■ お子様情報通信端末(スマートフォンやタブレット端末等)やアプリを使わせることに対する悩みや不安等ではまるものをお答えください。〔複数回答〕

		不適切な情報、画像に触れないか不安である	保護者の知らないうちに課金サイトに接続しないか不安である	心身への影響が不安である(姿勢が悪い、集中力が低下するなどへの悪影響)	情緒発達の面での影響が不安である	脳への影響が不安である	ネット依存にならないか不安である	いじめに巻き込まれないか不安である	十分な能力が身につかないことのための	お子様が情報通信端末を使いこなすための	お子様が情報通信端末が使い方に習熟し、保護者の方がコントロールがきかないに習熟	他の保護者ほどのように使わせているのか	お子様に情報通信端末を与えておもりをさせることに罪悪感がある	その他	不安や悩みはない
年齢別	0~3歳児 (N=750)	52.5	51.2	61.1	28.5	37.6	48.5	13.2	8.3	9.7	13.9	18.1	0.4	9.7	
	4~6歳児 (N=600)	56.3	51.2	55.3	23.5	27.2	46.3	14.5	7.2	8.2	8.0	10.8	0.2	8.5	
	小学1~3年生 (N=200)	63.0	56.0	46.0	19.0	28.5	49.5	16.0	9.0	8.0	11.0	4.5	0.0	9.5	
	小学4~6年生 (N=200)	64.5	52.5	44.0	17.5	20.5	49.0	25.0	9.0	9.5	6.5	1.5	0.5	13.0	
兄弟構成別	長子 (N=850)	55.5	52.4	59.4	27.5	34.5	47.4	15.8	8.2	9.2	12.0	14.9	0.2	8.6	
	第2子以降 (N=900)	57.2	51.4	51.7	21.6	27.8	48.4	14.9	7.9	8.8	9.4	9.6	0.3	10.7	

■ 長子と第二子以降の保護者で5ポイント以上差のあった回答 (%) (左の結果を整理したもの)

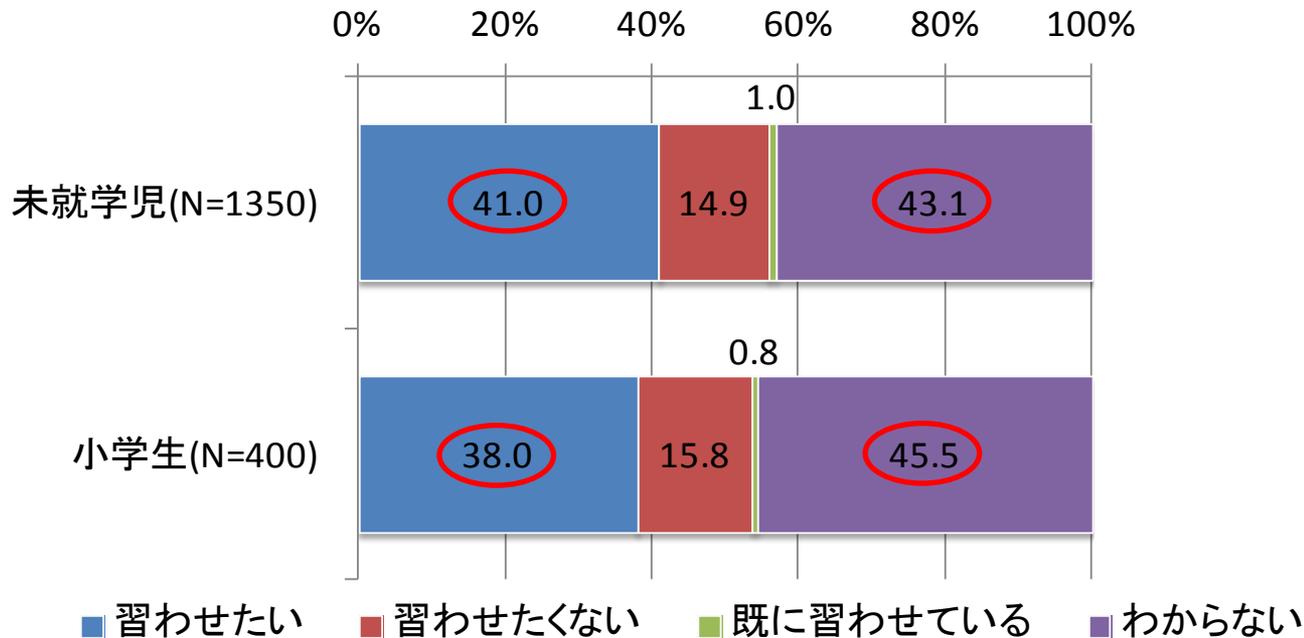


2) 保護者の意識 ④期待

プログラミング

●未就学児・小学生の保護者とも、それぞれ、プログラミングを習わせたいとする回答と、わからないとする回答がともに4割程度であった。

■未就学児・小学生向けにコンピュータのプログラミングを学ぶ試みが、一部の小学校やNPO法人等で始まっています。あなたはお子様に「プログラミング」を習わせたいと思いますか。〔一つ選択〕



※設問文には、プログラミングを学ぶ試みの説明として、下記の説明を記載した。

お子様向けに作られたゲーム感覚で楽しめるソフトウェアを用いてプログラミングのおもしろさを学ぶ取り組みです。プログラミングを学ぶと、アプリやゲームの作成などを通じてプログラムを書く力だけでなく、論理的思考力の育成や情報通信技術への関心が高まったり、ものづくり意欲の向上等にも繋がると言われています。

2) 保護者の意識 ④期待

将来の必要性

● 全体の8割以上(80.6%)の保護者が、子どもの将来にとって、情報通信端末を利用できるようになることに肯定的であった。

■ あなたのお子様が、スマートフォンやタブレット端末やパソコンや、インターネットを利用できるようになることは、お子さまの将来にとって必要であると考えますか。〔一つ選択〕

